

令和 5 年度 県立取手第二高等学校自己評価表

目指す学校像	1 生徒一人一人が個性を発揮し、主体的に活動する学校 2 社会で生きていくために必要な資質・能力を身に付けることができる学校 3 自己のキャリアについてしっかり考え、目標に向けて果敢にチャレンジできる学校 4 家庭・地域社会との相互理解を図り、家庭・地域の信託に応える開かれた学校 5 教職員相互が指導力の向上及び環境の整備を図り、一致協力して組織的かつ計画的に教育活動を展開できる学校		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○自ら考え行動し、他者と協力して課題が解決できる人財 ○自己実現に向けて、ひたむきに努力ができる人財 ○地域を支える核となって活躍する、社会に貢献できる人財	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○個に応じた学習形態（少人数、TT等）による学力の向上 ○協働的な体験学習の中で成功体験の積み重ねによる、自尊感情や自己肯定感の高揚 ○文・理・家政系それぞれのニーズに合わせた知識・技能の習得とキャリア教育による、多様な進路希望の実現	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○主体的に取り組む姿勢を持ち、学習や部活動、特別活動に積極的に参加する意欲のある生徒 ○学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、自分の進路実現を目指して日々努力する生徒 ○家庭科の学習に興味を持ち、専門的な知識や技術を身に付けるよう積極的に取り組む強い意欲のある生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>基本的生活習慣が身に付いている生徒がほとんどであり、学校生活全般に落ち着きがみられる。</p> <p>学校生活アンケートにおける「授業の内容が理解できている」生徒は 80%を超え、授業に対応できる知識・技能は習得できている一方で、「授業の予習・復習をしている」生徒は 49%にとどまる。進学希望者は毎年 80%程度で、大学・短大への進学希望者は 30%を超えており、進路実現と進学後の学力維持・向上を意識した自主学習習慣の定着が課題である。昨年度の卒業生における大学短大・専門学校進学者は 77%、うち、大学短大進学者は 31%であった。</p> <p>「学校行事に積極的に参加する」生徒は自己評価で 95%、「充実した高校生活を送っている」生徒は 93%、部活動加入率は 46%であった。</p>	学力を向上させるための授業実践及び授業改善	<p>授業実践</p> <p>①少人数授業、課外授業等の充実を図り、個に応じた発展的な学びを推進して学習意欲を高めるとともに、入試や資格試験に対応できる学力の向上を目指す。</p> <p>②学校図書館等の積極的な活用を促し、自学自習の習慣の定着を図る。</p> <p>授業改善</p> <p>③P D C A サイクルによる学習指導の工夫や改善を図る。 (K P I) 生徒による授業評価・授業満足度の評価項目 5 で校内平均 3.5 以上。</p> <p>④教科指導における I C T の活用を推進し、生徒の実態を踏まえた課題や内容の精選を通して、個別最適化に向けた指導の充実を図る。</p>	B
	社会で通用するマナーやルールを身に付けさせる生徒指導の充実	<p>⑤時間を守り（時）、礼を尽くし（礼）、身だしなみや周囲の環境を美しく保つ（美）の徹底を図る。</p> <p>⑥段階的指導を有効に活用し規範意識を高めるとともに、公共の場におけるマナーを身に付けさせる。</p>	B
	キャリア教育の推進	<p>⑦各種進路行事や課外授業の在り方を検討し、個に応じた進路指導の推進を図る。</p> <p>⑧デュアルシステムやインターンシップなどの実践により、職業意識の高揚を図る。</p> <p>⑨様々な教育活動や行事等と関連付けながら、個々のキャリアプランニング能力を高め、3年生の時点で進路希望未決定者を 0%にする。</p>	B
	豊かな心の育成	<p>⑩「道徳」や「探究」における協働的な学びを通して、他者や社会、自分と異なる世界との関わりを学び、人間関係構築力やコミュニケーション力を養う。</p>	B

別紙様式 2 (高)

		⑪学校行事や特別活動を通して、集団の一員として他人の立場を尊重し、思いやりの心で人と接することができるようにする。 ⑫面談や教育相談による心のケアの充実を図る。		
	主体的で活力ある学校生活の実現	⑬HRや学校行事等においてキャリアパスポートを活用し、自らの高校生活のあり方や振り返りを通して、自己理解の深化と将来について主体的に学び考える力を育む。 ⑭生徒会活動や各種委員会活動の魅力化・活性化を図り、主体的に活動する姿勢を育成する。 ⑮活発な部活動を積極的に評価することで自尊感情・活動意欲を高め、部活動の加入率の上昇と活性化を図る。		B
	働き方改革の推進	⑯現行の業務内容について点検・見直しを行い、スクラップアンドビルドによる業務改善に取り組み、勤務時間の適正化に努める。 ⑰ICTの活用による情報の共有化や会議の効率化を図る。 ⑱「部活動に係る活動方針」に基づき、環境を整備し、適切な運営体制を構築する。		B
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
国語科	豊かな社会生活を送るための知識や技能の定着	授業における語彙力の重点的な学習及び年間を通して継続的に実施する漢字テストにより、入試や実社会に通用する語彙力を養い、言語運用能力の向上を図る。①	A	・ICTの活用の差を補う、教科内での活用スキルの統一 ・国語便覧の有効活用の方法を探り、「史」の観点を取り入れた授業への改善
		新聞の活用や学校図書館を利用した読書指導を実践し、読書習慣を身に付けさせるとともに、「書く」指導を充実させ、自己表現力を身に付けさせる。②	B	
	表現することを楽しみ、生徒が主体的に授業に取り組めるための授業改善	十分な教材研究に基づいた「分かる授業」を実践するとともに、生徒が知的好奇心をもち自ら積極的に参加する授業を旨とし、ICTを取り入れる等の工夫を行う。③④	B	
	生徒が間違えることを恐れずに自己の考えを表現できるように、授業の雰囲気作りやノートの取り方を工夫する。③	A		
地歴公民科	知識や技能の定着と社会的事象への関心を喚起する授業実践	生徒の実態に即し、調べ学習・表現学習などを通して技能の定着を促す。①	A	・電子黒板やタブレット等の活用に伴う、生徒が主体的に授業に取り組めるような授業改善
		電子黒板・タブレットなどを活用し、社会的事象に興味・関心を抱かせる。④	A	
	生徒が自ら考え、主体的に授業に取り組めるための授業改善	視聴覚教材・電子黒板・タブレットなどを有効に活用し、生徒が主体的に授業に取り組めるような環境を整える。④	B	
		適切な発問や課題を通じて、自らの考えを文字や言葉で表現できるように授業改善に取り組んでいく。③	B	
数学科	知識や技能の定着	授業における目標の提示や復習、小テストの実施や課題等での振り返りを適宜行い、PDCAサイクルによる学習指導を通して技能の習得を図る。③	A	・生徒の数学に対する興味・関心の向上 ・指導と評価の一体化による授業改善 ・個に応じた支援の充実
		ICTを効果的に活用し、資料の提示や課題配信等を行い、知識の定着を図る。④	A	
		少人数授業や課外授業等を通して、個に応じた学習支援を行う。①	B	
	主体的に学ぶ態度の育成	意見の共有や教え合い等の主体的・協働的な活動を通して、数学的な思考・判断・表現力の向上を図る。③	A	
		電子黒板やタブレットを活用し、他者に説明したり、自分の考えを深めたりする機会を設ける。④	B	
		課外授業等を通して、数学検定等の資格取得や大学入試に対応できる学力の向上を目指し、発展的な学びに対する指導を行う。①	B	

別紙様式2 (高)

	生徒の数学的思考力を高めるための授業改善	十分な教材研究、定期的な授業アンケートを実施し、日々の授業改善に努めるとともに、生徒が主体的に考える授業実践に取り組む。①③	A		
理科	科学的リテラシー、学習事項の基礎基本の定着と上級学校へ向けた学力育成(知識・技能)	スタディサプリの活用を研究し、効果的な学習方法が展開できるよう援助する。②③④	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・スタディサプリアを予習に使った授業展開 ・個の能力に合わせた課題の選択ができるような工夫 ・定期考査以外の評価の工夫 ・実験回数の増加 ・進学課外授業を各学年や限定した教員にとどめずに全学年で開放した課外のあり方を検討
		個に応じた進学課外授業を実施する。①	A		
	生徒の主体性を育成できるような授業展開(学びに向かう力)	教科指導におけるICTの活用を推進し、復習や予習など必要とする生徒に配信することで、個別最適化に向けた指導の充実を図る。④	B		
		学期内に相互授業参観を2回以上行い、教科間で情報の共有や指導法の相互評価を行うことで授業力の向上を図る。①②③	A		
	学習事項と日常の科学的事象とを結びつけて考えられる力の育成(思考力・判断力・表現力)	アクティブラーニングの手法を用いた学習を実践する。また、それに伴う教具を準備する。①②	A		
		振り返りシートでは学習内容を文章で表現し、興味関心を持った内容や授業での思考力を必要とする気づきや疑問点をまとめられる力を育成する。①③	A		
	観点別評価による、生徒の資質の多様な側面からの評価	振り返りシート、レポート、小テスト、パフォーマンステストなど、多様な評価を行うとともに、定期考査で評価する観点を明確にする。③④	A		
		定期考査における評価を観点別に行う。③	A		
科学と日常生活の関連を結びつけるための授業改善	日常生活との関連や、授業の目的の明確化により、能動的な学びを展開する。①②	B			
	実験や探究活動など、言語活動を取り入れた生徒主体の授業を積極的に展開する。③	B			
保健体育科	主体的な集団活動を行う中での社会性の育成	挨拶、準備、片付け、集団行動に力を入れる。⑤⑥⑩	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容の精選と共有 ・ワークシート活用方法の検討と改善 ・評価の在り方の検討と改善 ・コミュニケーション促進支援の工夫
		グループ学習を取り入れ、生徒が自ら考え、意見を共有する場をつくる。①⑫	B		
	体力の向上	体力テストの結果から、次年度の改善策を検討する。①③	B		
		生徒の相互指導機会を設け、主体的・協働的な活動と体力の維持・向上を図る。③⑪	B		
	活動記録に基づく課題解決能力の向上	プリントやノートを定期的に点検し、課題解決型思考と活動の定着支援をおこなう。③⑫	B		
		各種目・各講座において、スキルテストの統一実施を行う。③	B		
主体的で活力ある活動づくりのための授業改善	定期的に体育のワークシート・保健ノートを活用した面談をおこない、活動の振り返りや課題克服に向けた助言と支援をおこなう。③⑫	B			
芸術科	表現領域の深化と、創造的な能力の向上	幅広い教材を扱い、多様な技術や表現方法に触れ、表現技能の基礎を育成する。①④	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の思いに触れる鑑賞の時間の確保 ・生徒の興味関心を引き出す鑑賞授業の工夫
		表現方法を工夫しながら、生徒の個性を生かした創造的な表現活動を支援する。①	A		
	鑑賞領域の充実による、芸術文化についての理解	日本や世界の様々な芸術作品に触れ、よさや美しさを味わうことで、鑑賞意欲を育てる。①④	B		
		作品について自分の言葉で表現すること、また他者の思いを感じ取ることで、鑑賞の能力を高める。①	B		
表現技能と鑑賞能力を高めるための授業改善	十分な教材研究に基づいた授業を実践するとともに、生徒の興味関心を引き出す題材を取り上げる。③④	A			
英語科	幅広い学力層や多様な進路希望に対応する指導方法の工夫	生徒全体の知識や技能を向上させるため、小テストや単語テストを継続的に実施し、4技能の基礎としての語彙力・文法知識の定着を図る。②	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導のさらなる充実 ・4技能の定着を図るためのICT機器を用いた授業の研究
		大学進学対策や英検対策など生徒の進路や希望に応じた課外授業を実施し、実態に即した支援を行う。③	B		

別紙様式 2 (高)

	自主学習・家庭学習の定着	授業の予習・復習を習慣化させ、デジタル教科書等 I C Tを活用することで生徒が主体的に学べるように授業を展開する。②	B		
		定期考査の計画的な対策や事後の振り返りなど P D C A サイクルに基づいて自主的に学習に取り組む意識の高揚を促す。①	B		
		課題配信や視聴の促進などスタディサブリを効果的に活用することで、授業と連携した学習支援を行い、自主学習・家庭学習の定着を図る。②	B		
	英語コミュニケーション能力を高めるための授業改善	I C Tの活用および A L Tとの T Tを通して4技能を総合的に高める指導を工夫し、実践的コミュニケーション能力の育成を図る。②③	B		
		グループやペアでの言語活動を取り入れた生徒主体の授業を積極的に展開する。③	A		
家庭科	基礎的知識・技術の定着・向上	家庭科において、資格取得(上級合格)を目指し、家庭科技術検定では1級3冠王を輩出する。①	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ I C T活用の効果的な使用方法の工夫 ・ 個別指導の更なる充実 ・ 実技の習得・技術の向上に向けた指導 ・ 家庭クラブ活動の活性化
		T Tや少人数授業により、個々の生徒の到達度を把握し、きめ細やかな支援を行う。①④	A		
		大学出前講座やマイスター制度を活用し、家政系の進路への進学意識を高める。⑧⑨	A		
	社会体験・地域との連携強化	学校家庭クラブ活動を活発にする。(子育て支援、家庭教育支援、T O R I N Yブランドの P Rなど)③	B		
		デュアルシステムにより、生活産業への理解を深め職業観を培う。⑧⑨	A		
主体的に学習する態度を育成するための授業改善	専門科目を教える自覚を持ち、指導技術向上のため情報を共有し、研修に励む。③④⑱	A			
	I C Tを効果的に活用し、主体的に学ぶ態度を育成するよう授業改善を行う。③④⑱				
情報科	知識・技能の定着・向上	I C Tの活用を積極的に行い、I C T機器の基本的な操作の習得・習熟に努める。④	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報モラルの年間を通じた指導による定着 ・ タブレットの利活用の推進
		情報処理関係の検定試験の受験を推進し、入試や就職に対応できる技能の向上を目指す。①	A		
	情報モラルの向上	情報社会を巡る具体的な問題事例を積極的に取り上げ、探求的な学びを通して情報モラルを養う。⑩ I C Tを活用する上でのマナーやモラル、ルールについて年間を通じて繰り返し指導する。⑩	B		
	教科目標達成に向けた授業改善	毎時間振り返りを行うことで個々の生徒の理解度を高め、P D C A サイクルによって学習指導の改善を図る。①③	A		
教務部	授業実践を通しての学力向上	各教科と連携し、生徒の実態に即した教育課程の編成及び運営、実施状況の評価と改善に努める。①③	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ I C T を活用した授業の研究・促進と、個々の生徒の理解度に応じた「わかる授業」の展開、「ためになる授業」への深化 ・ 生徒の自主学習の環境づくりの支援 ・ 学校ランドデザインを踏まえた教育課程編成の見直し、改善
		I C Tを活用した授業の実践、少人数授業や課外授業等の充実による発展的な学びと、個々の生徒に配慮した「わかる授業」を推進する。②③	B		
		学習活動アンケートにより生徒の授業理解度や学習状況を把握し、授業改善による学力向上に繋げる。①	B		
	校内における I C T環境整備	各普通教室及び特別教室等に整備する教育用コンピュータや周辺機器の管理を行う。②⑱	A		
		校内 L A Nやインターネット接続等、ネットワーク環境の整備に努める。⑱	A		
	I C T環境の保守管理にあたり、情報セキュリティの確保や個人情報の保護、コンピュータウイルスへの対応に留意する。⑱	A			
	会議や情報共有における I C Tの活用を促進する。⑱	A			
生徒指導部	基本的生活習慣の確立	きちんとした身だしなみを身に付けさせる。(頭髪・服装指導を段階的に定着) ⑤⑥	B	B	・ 自らルールを遵守(身だしな

別紙様式 2 (高)

	生徒が自己実現を図る上で必要な自己指導能力の育成	自ら環境等を整える態度を育成する。(段階的指導による自己指導力の育成) ⑩⑪	B	B	み等)する自己管理力を身に付ける方策の検討 ・問題行動の未然防止および早期発見・対応ができるよう講演や集会等での周知 ・生徒観察やアンケートの実施、職員間における情報の共有の密な設定
		礼儀・挨拶・言葉遣い等の基本的マナーを身に付けさせる。(声掛け指導) ⑤⑥	A		
		時間遵守して生活ができる習慣を育成する。(遅刻指導等) ⑤⑥	B		
		いじめや問題行動等への予防・解決に努め、生徒を健全育成する。(関係機関等の講話・家庭訪問・個人面談等の実施) ⑥⑩⑪	B		
	交通安全指導の充実	学校・家庭・地域・関係機関等と連携して生徒の健全育成と社会的自立を図る。⑩⑪	B		
進路指導部	個に応じた進路指導の推進	交通安全講話や登校指導等による道路交通法の励行や交通マナーを身に付けさせる。⑩	B	B	・進路のしおりの活用の工夫 ・外部模試の活用方法と生徒への意識付け ・進路学習室の環境整備
		3年間を見通した進路計画の充実を図り、生徒のキャリアプランニング能力を高める。⑦⑨	B		
		面接指導や外部模試、資格試験等を実施し、大学・短大、就職試験等への対策を行う。③⑦	B		
	Toriny Academy を活用し、進学希望者に対する支援の充実を図る。⑦	A			
	キャリア教育の充実	インターンシップや職業人講話、職業ガイダンスを実施し、職業観・勤労観を身に付けさせるなど、職業意識の高揚を図る。⑧	B		
	進路情報の共有と活用	入試や就職に関する情報を進路のしおりや進路だより等により提供することで、生徒の自主的な進路活動を支援する。⑦⑨	B		
		個に応じた進路活動の場として、進路学習室を有効活用する。⑦⑨	B		
特別活動部	他者との関わりのなかで、自らが活躍できる場所を見つけることでの、自己肯定感の高揚	生徒会本部役員の主体的な活動を促すことで、リーダーとしての資質向上を図る。⑭	A	B	・学校行事の在り方の検討 ・業務の可視化 ・職員間での課題の共有
		各種学校行事に対して、生徒が自主的に活動・運営できるように支援する。⑪⑭	A		
		部活動の環境改善に努め、生徒の健全な心身の育成と学校の活性化につなげる。⑮	B		
		生徒が、地域貢献活動に主体的に参加できるように支援する。⑪⑭	B		
		キャリアパスポートの作成を通して、自己の成長を確認する。⑨⑩⑬	B		
保健安全部	環境整備・清掃の強化	ゴミの分別や教室美化についての生徒の意識の向上を図る。⑤	B	A	・ごみ箱のサイズや配置の見直し等による教室美化の強化 ・各学年とSC、SSWとの連携体制の強化
		整備委員会の活用を図る。⑭	B		
	教育相談の充実	生徒・教師・保護者との連絡を密にする。⑫	A		
		SCやSSWをはじめとする関係諸機関との連携を図り、場合に応じたケース会議の速やかな実施を行う。⑫	B		
職員研修の充実	SCやSSWによる研修の充実を実施する。(学経2-5)	A			
	AED講習会を開催する。(学経2-5)	A			
渉外部	保護者や地域住民への情報発信	P T A新聞「あおい」を年2回発行し、学校およびP T A活動に関する情報を外部へ発信する。⑦⑫⑬	A	A	・文書・画像等データの整理 ・校内幹事(事務局)の充実 ・役員選出方法の改革推進 ・100周年記念事業に向けての校内連携
		生徒広報委員会の活動を通して、近隣中学校や地域住民に学校の情報を発信する。⑪	B		
	保護者が参加しやすいP T A組織づくり	定例委員会・各種専門委員会の開催により、P T A役員・保護者との連携に努める。⑦⑩⑭	A		
		P T A総会を開催し、P T A会則の見直しや保護者の負担軽減を図る。⑯⑰	A		
	生徒指導部及び各学年との連携を図り、学年委員協力の下、年2回登校指導を行う。⑤⑥⑩	A			
	同窓会との連携	同窓会役員との連携を図り、100周年記念事業の計画を推進する。また3学年生徒に対する同窓会入会式の実施を支援する。	A		
図書部	図書館の環境整備	利用価値が低い図書を除籍・廃棄し、図書資料の充実を図る。②	B	B	・読書習慣の定着並びに不読率解消
		各教科と連携を図り、図書の購入計画と活用計画を立てる。②⑨	B		

別紙様式 2 (高)

		他の公立図書館との連携を通して、学習センター・図書センターとしての機能を充実させる。②	B		<ul style="list-style-type: none"> ・学習センターとしての機能の充実 ・魅力ある学校図書館としての環境整備 ・読書習慣の重要性周知のための広報活動
	読書習慣の定着	図書館便り・学校行事等を通して読書の楽しさを伝え、読書習慣の定着を図る。②	A		
		生徒図書委員と図書担当職員の研修会に積極的に参加し、図書館の活性化を図る。⑭	B		
	豊かな心の育成	読書を通して、他者や社会との関わりを学び、思いやりの心、コミュニケーション力を養う契機を与える。⑪	B		
第1学年	基本的生活習慣と学習習慣の確立	安心できる環境を提供し、心身の健康に寄与する。⑫	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守る、提出期限を守る等基本的生活習慣の確立 ・コミュニケーションスキルを高め、適切な人間関係の構築 ・進路意識を高め、個々の進路分野に向けた取組みの実践
		学習することの意義を理解させ、計画的な学習習慣の確立を目指す。②④	B		
	提出期限の厳守、登校状況、服装容儀などの基本的生活習慣の確立に努める。⑤	B			
	進路意識の醸成と適切な進路選択の支援	発達段階に応じて適切に計画を立て、進路意識を深める。⑦	B		
環境適応能力を身に付け、心身の調和がとれた人物の育成	職業を知り、自己を見つめ、自分の適性に応じた進路選択を支援する。⑨	A			
	社会に積極的に関わり、他者に配慮できる人材を養成する。⑩	B			
第2学年	生活・学習習慣の定着支援の充実	自分の言動に責任を持ち、場に応じた言動が取れるようにする。⑤	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守る、提出期限を守る等基本的生活習慣の確立 ・コミュニケーションスキルを高め、適切な人間関係の構築 ・進路意識を高め、個々の進路分野に向けた取組みの実践
		ガイダンス等を活用して情報を収集し、習慣確立の大切さと学習することの意義を理解させる。①③⑤	B		
	面談を活用して目標設定と取組計画を共有し、習慣の確立を支援する。④⑫	B			
	規範意識と集団意識の醸成	ルールとマナーを理解して安心して生活できる環境づくりをおこなう意識と責任を高めるように支援する。⑤⑪	B		
環境適応能力を身に付け、心身の調和がとれた人物の育成	社会に積極的に関わり、他者に配慮できる人材を養成する。⑩	B			
	自分の言動に責任を持ち、場に応じた言動が取れるようにする。⑤	B			
第3学年	社会に求められる人財の育成	クラス等の所属する集団の中での役割を与えることで、他者のことを考え主体的に行動する力を育てる。⑬⑭	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業を大切にすることや、集会時のけじめ意識の醸成 ・マナーの向上 ・就職希望者指導の教員間共有を具体的に行い、二重三重のチェック体制の構築 ・探究の時間の活用が進路決定後にも有効だったかの検証
		日頃の指導や講演を通して規範意識、マナーを身に付け、時と場に応じた振る舞いができるように支援する。⑤⑥	B		
	学習習慣の確立と授業に真剣に取り組む姿勢の定着	授業を大切にすることを意識し、学習意欲を高める。②④	B		
		学習計画の支援や学習環境の整備を行うことで、自主的に学習に取り組む姿勢を育む。③④	B		
	進路について自律的に行動できる生徒の育成	進路ガイダンスなど進路に関する情報収集の機会を設け、自身の適性や希望に応じた進路選択ができるように努める。⑦⑨	A		
		日頃の指導や講演を通して規範意識、マナーを身に付け、時と場に応じた振る舞いができるように支援する。⑤⑥	B		
		面談等で得た情報を統一的に管理し、生徒の進路実現に向けて細やかな指導に努める。⑨	A		
	総合的な探究の時間を利用して、希望進路別に細やかな個別指導を行う。⑦⑨	A			

※ 評価規準：A 十分達成できている B 概ね達成できている C あまり達成できていない D 不十分である